

やわあ!

TIA news



財団法人栃木県国際交流協会
Tochigi International Association
URL <http://tia21.or.jp>
E-mail tia@tia21.or.jp

2005
spring 5 No. 91

特集 日本で子育て ①

とちぎで暮らして…	レティアナ アンガラニさん(インドネシア)
世界をペロリ	タイ料理「ミエン プラトゥ」
あんな店こんな店	フレンズ de カフェ
心に残る私の写真	フランス 岡 絵理香さん
国際理解への扉	「中高生が見て触れた中国」



中国茶を飲みながら、あめとお菓子を楽しむ。包装に「囍」の文字が書かれているあめは、幸せになるようにとの願いを込めて、結婚式などで配られる。

レティアナ アンガラニさん (29歳)

Retiana Anggarani



プロフィール

インドネシア・ジャカルタ出身。2年前に来日。日本人のご主人とは、インドネシア大学で知り合った。現在は、ご主人とともに通訳・翻訳会社を立ち上げるほか、様々な方面で活躍中。

—こんにちは。ご主人はインドネシア語ができるんですか。レティアナ 知り合った当時、彼は留学生としてインドネシア語を勉強していました。私の専攻は会計でしたが、趣味で日本語を勉強していました。あの頃はお互い下手な日本語と下手なインドネシア語で無理やり会話していましたね。

—その出会いから結婚まではいかがでしたか？

レティアナ 彼が勉強を終えて日本へ帰ってしまってから、とても寂しさを感じました。結婚したいと思っても、その頃はまだ、姉が結婚していなかったことや、宗教上の問題もあり、父から強く反対されました。

でも徐々に彼の人がわかって、最後には賛成してくれました。インドネシアの結婚式は、伝統的である一方とても時間がかかり大変です。私たちの結婚披露パーティーには1,500



▲豪華な結婚式



▲パパとママと美人三姉妹

人が集まりました。日本人には驚かれますが、これは少ない方なんですよ。

—日本での生活はいかがですか

レティアナ インドネシアでは、私はとても活動的でした。全インドネシア

日本語弁論大会で優勝し日本に行ったり、経理の仕事しながら、インドネシア人に日本語の基礎を教えたり、日本人にインドネシア語を教えたりしていました。それからは、日本企業の駐在員や雑誌の特派員の通訳の仕事にもチャレンジするなどして、あちこち飛び回っていたんです。でも、こちらでは運転免許をまだ持っていないので思うようには行動できないですね。それと、日本人となかなか親しくなれないと感じています。インドネシアでは、知り合いでなくても気軽にあいさつしたり、話をしたりしますが、日本で同じように話しかけたりしたら、変な目で見られることが多いです。日本人はもっと心を開いてほしいですね。

—多くの外国の方がそう言いますよね。

レティアナ でも冷たい日本人ばかりではありません。先日は日本人の方から話しかけてくれました。話を聞いてみると、タイに15年間住んでいたそうです。やはり外国で暮らしたことのある方や年輩の女性などは優しい方が多いように思います。

—これからの目標を聞かせてください。

レティアナ 外国人が日本で納得のいく仕事を見つけるのは、とても大変です。それでもやりがいのある仕事、いろいろな新しいことにチャレンジしていきたいです。

世界をペロリ

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付で紹介します。

タイ料理「ミエン プラ トゥ」

材料 (2~3人分)

- たれ
- にんにく…… 2片
 - とうがらし…… 3~5本(好みで調節)
 - レモン汁…… 1個分
 - ナンブラー…… 約70CC (レモン汁と同量)
 - さとう…… 小さじ1杯
- 具材
- いか、えび、たら、はまぐり、ほたてなど
 - そうめん…… 2束
 - レタス…… 1/2個



今回、紹介してくれたのはタイ出身のウイワタナウェイ・ピヤナンさん。タイはご飯の替りにそうめんをよく食べるという。この料理は、みんなでワイワイやりながら食べるのだそう。



この料理の決め手はたれ!簡単でおいしくヘルシー



①にんにく、とうがらしの順ですりばちでつぶしたところにたれの調味料を加える(たれは出来上がり)



②エビは背中に切りこみを入れ、その他好みの具材をゆでる。魚は生臭さがあるので最後に別々にゆでる。



③そうめんをゆで、写真のとおり一口大に丸めておく。



④レタスにそうめん、具をのせ、たれを小さじ一杯程度をかけ、レタスを巻いて一口で食べる。



平成17年度
栃木県国際交流員(中国担当)

答 晓晶さん (26歳)
Da Xiaojing

一答さん、はじめまして。日本は初めてですか？

答 実は、大学生のときに長崎純心大学に交換留学で1年間日本に住んだことがあるので、来日は今回で2回目です。その頃は、学生だったこともあり、自由な雰囲気の中で、同じ中国からの留学生たちとも仲良くしていましたが、今回は日本で社会人の立場ですので、敬語の使い方や電話の対応の仕方など様々なことを学びたいと思っています。

一もう学ばなくてもいいくらい、日本語が上手ですが。

答 私は四川省のとなりの湖北省出身ですが、そこに学びたい外国語を選択できる学校があり、そこで6年間日本語を学びました。それから大学でも日本語を専攻したので、日本語歴は長いですが、分からないこともたくさんあります。「ヨン様」など流行語はインターネットでチェックしています。

日本に来る前は、北京言語大学で日本語を教えており、通訳コースなども担当していました。あいさつや簡単な逐次通訳ができれば、日本やまたその関連会社に就職するチャンスがあるんですよ。



▲大好きなお父さんお母さんと

一県庁の国際交流課に勤務されるということですが。

答 日本の会社のイメージは、厳しい上下関係や適切な敬語に気をつけるというものでした。しかし国際交流課に行ってみると、明るい雰囲気の職場で、想像とだいぶ違ったのでほっとしました。また、中国と日本では仕事の進め方も違うと思います。日本は段取りを重視し、そのための準備もきちんとしていますが、中国はそのための時間は省き、担当者の能力でカバーしてしまうところがあります。日本の仕事の良い面を身につけたいと思っています。一これから一年間の計画を教えてください。

答 限られた時間の中で、気がついたことは何でもやってみたいです。私はおしゃべりも好きなので、国際理解のために中国のことや自分の経験なども伝えていきたいと思っています。



English K Diner フレンズ de カフェ



▲スタッフのみなさん(右2番目が田野さん)



▲メンチカツカレーおいしそう!



▲ヒップホップのクラス

英語が好きな人、多国籍料理が好きな人に絶対おすすめのお店を紹介しよう！スタッフ全員が英語ができるということで、気軽に英語で話しかけたり、オーダーしてもOK！何か緊張しちゃうなあと感じてしまったあなたも、大丈夫。スタッフのみなさんが明るく迎えてくれるし、別に日本語禁止っていうのではない、のんびりできるカフェなのだ。

オーナーシェフの田野克明さんは、東京近郊などに多数の店舗を展開している「キハチ」で7年、料理のプロとして働き、それからカナダ・バンクーバーで8年間さまざまな経験を積み、2年前に帰国したばかり。

このカフェは、ランチの国籍が毎日替わる。例えば、今日はイタリアン、明日はインド料理・・・という具合だ。他

にも韓国、メキシカン、フレンチ、中華、和食など毎日行っても飽きないくらい。また、月替わりのスペシャルカレーも好評だそう。日替わりランチは、コーヒーとプチデザート付で800円(税込み)。



日替わりランチのメニューはホームページでもチェックできる。

フレンズ de カフェの魅力は多国籍料理ばかりでない。田野さんのカナダで生活した経験を活かして、これから留学やワーキングホリデーで海外に行きたい人への相談にもものってくれる。「夢は叶えられる。目標を持って頑張っている若い人たちを応援していきたい。」と田野さんは語ってくれた。

また、フレンズ de カフェと同じ建物内にあるスタジオでHIP HOP、ブレイクダンス、ピラティス、ストレッチ、バレエなどさまざまなクラスが併設されている。

おいしい料理に英会話、ダンスなど、楽しいことがいっぱい詰まったフレンズ de カフェ、一度行ってみて！

English K Diner	フレンズ de カフェ	
営業時間	11:30~15:00	
定休日	土・日・祝日・第5週目	●GS
住所	宇都宮市鶴田町1744-24	平成通り 滝谷町
T E L	028-648-0642	●東京インテリア
U R L	http://www.h6.dion.ne.jp/~so0642	

日本で子育て

TIAニュースやあ! 特集

①

子育ては人生最大の価値あること…でもすごく大変!!
日本で頑張っている外国人ママやパパはどうしてるんだろう!?
今回のやあ! 特集は、日本や海外での子育てに注目してみた。

孫 エイケン 穎宣 さん (32歳)



▲孫さん一家。まだ赤ちゃんだった頃

台湾出身。1991年来日。秋田大学大学院卒業後、日本人のご主人と結婚し宇都宮市に転居。2才(男の子)のママ。

台湾のママと日本のママ

私から見て、日本のママは完璧を求める人が多く、またその一方で放任している人もよく目につきます。でも、一番すごいと思うのは、私の日本人のママ友達はみんな、子どもの食事の栄養バランスにとっても気をつけて



▲市の子育てサロンに参加

いるんです。台湾では、好きなものをたくさんあげてしまったり、日本のママほど神経質にはなりません。台湾では、共稼ぎが当たり前なので、子どもを祖父母やお手伝いさんなどに育児を任せます。共稼ぎが多いなかでも、台湾の親は、自分たちのプライベートな時間を守りたいという意識がとて強いので、子どもと別々の部屋で寝るのが一般的です。主人の「川の字で寝るのが幸せ」という価値観に初めのうちは慣れませんでした。今では私もそうかなと思うようになりました。

このように日本で子育てをするにつれて、台湾の考えが日本的に変わることもあります。迷うこともあります。学歴社会の台湾では教育熱心で、多くの子どもたちが塾や習い事をしていきますが、日本で耳にする「のびのびと育てる」という方針にも魅力を感じます。迷いながらも子どもにとって良い人生を考えていきたいと思っています。



▲ご主人の丞さんとは何でも話し合う

子どもが出来て、日々カルチャーショック

来日して14年がたちました。ある程度日本の生活に慣れていると思っていたのに、子どもが生まれると毎日がカルチャーショックの連続です。日本では、子どもは親が育てるという意識が強いと思いますが、台湾では、社会みんなが育てるという感覚があります。悪いことをすれば、親でなくても注意しますし、母親が具合が悪ければ、近所の人や友達に預けます。しかし日本では、どんなに仲良しの友達でも、子どもを気軽に預けるといふところまでにはいかないようです。

子どもが生まれて最初の一年は、とても孤独でした。まだ歩けない息子と出かけるのは大変なので、外にもあまり出かけませんでした。たまに託児所に預けようかと思っても、どういう面倒の見方をされるかとても不安だったので、一度も利用したことはありません。

日本には親子で参加できる子育てサロンやサークルがいろいろあるので、そこでママ友達もたくさんできました。台湾にはそのようなサービスはないので、余計に有難味を感じています。

村落開発普及員が見た地域ぐるみの子育て

関口菜摘子さん (27)

青年海外協力隊員スリランカのスラム(低所得者居住地域)で住環境の向上を担当



▲担当地域を訪問する関口さん

私が活動した地域は、都市部とは違い貧困による様々な問題を抱えたところ。そんな中でも、就学率は高く、識字率(文字の読み書きの能力)も80%以上にはなるのですが、逆に学校を中途で行かなくなる子どもたちも目につきます。これは保護者の教育への意識によってだいぶ左右されるようです。

この地域では、昼間は玄関を開けっ放しの家がほとん

どで、とてもオープンです。近所の子どもたちが家に入って来ても気にしないし、悪いことをしたら親でなくてもしっかりと叱ります。また、日本のような核家族ではなく、おじいちゃんやおばあちゃん、親戚のおじさん、おばさんと一緒に住んでいる家庭が多いので、育児の負担が母親にだけのしかかるようなことはありません。

また、年上の子が年下の子の面倒を良くみますね。同級生だけで固まるのではなく、地域の子どもたちが一緒になって遊んでいます。

私の出会った子どもたちは、活発でだらかな一方、「大きくなったら何になりたい?」と聞かれても、答えられない場合が多いです。情報不足や職業選択の困難な状況が、子どもたちが将来像を描けない環境につながっているのかもしれない。

ハムドラ アキン Hamdullah Akin さん (33歳)



▲長男のメルバン陽君と一緒に

トルコ出身。2003年
来日。トルコでホテル
を経営し、日本人
観光客のために日本語
を学ぶために来
日。4才（男の子）
と1才（女の子）の
パパ。

トルコ流 かわいがり方

長男のメルバンはトルコで生まれているのですが、トルコ人のスキンシップはすごいですよ。頬ずりしたり、キスしたりで赤ちゃんが泣くまでかわいがってしまいます。うちの子は周囲のスキンシップに、顔が赤くただれてしまったこともあるくらいです。一方で「子どもをほめると悪魔が嫉妬する」と言われ、あまりほめないようにしたり、魔よけの石をブローチのように服に付けたりする習慣があります。妻は日本人なのですが、トルコは昔の日本がそのまま残っているようだと言っています。例えば、子どもたちは外に自由に遊び回っていて、日本のように親が心配して目を離さないようにしているといった光景はあまりないです。また育児に関してもお父さんの役割は少ないです。「男がやると恥ずかしい」という考えが残っているため、日本の若いお父さんのように、オムツを替えたり、寝かしつけたりということはほとんどしません。家事の一部を手伝ったり、子どもを遊びに連れて行くぐらいはしますけれど…。

トルコには出産費用に対する助成や児童手当の制度もなく、また出産や育児について学ぶ両親学級のような行政

サービスありません。一方で、トルコの子どもに対する社会の雰囲気はとても暖かいものがあります。街を歩いていると、知らない人が子どもにアメや風船をくれたり、レストランなどでは、お店の人が子どもと遊んでくれることもあり、親がゆっくり食事できるんですよ。



▲トルコに住んでいた頃のお友達

日本と同じところ…

トルコも日本と同じように核家族や共働きの家庭も増えています。トルコの地方では子どもが3人以上いる家庭も多いですが、都会では2人兄弟が多いですね。子どもが少なくなったせいか、子どもを甘やかす親も増えていきますし、学校の先生に対する期待や要求も多く、厳しいものになってきています。良い学校に入るための準備など敏感になってきている親もいるようです。

トルコ語？日本語？

日本生まれの娘、ローザ真生子はまだほとんど話せませんがメルバンはトルコ語も分りますが、やはり幼稚園に行



▲奥様の奈津子さんはとても素敵なお方

っているせいか、日本語はもうペラペラです。トルコに帰り、ホテルを再開する予定なので、息子が小学校に入学する1年前には帰国し、トルコ語に慣れておかなければいけないと思っています。

海外で子育てしたママたちに聞く

～経験をおぼえたいために～

末永美奈子さん (35) は5才と3才のママ。アメリカのシアトルに1年在住。「アメリカと日本では子育て環境が違うという場面が見られます。日本ではしつけは親の責任となっていますが、アメリカでは、子どもが悪いことをしたら周囲の大人が注意してくれます。人の集まる場所などで、子どもがうるさいのは当たり前という考えが浸透しているので、アメをくれたり、子どもの面倒をみる人がいてくれたりします。日本のように子連れだと嫌がられるかなと心配しなくていいんです。ピーターラビットに参加することで、言葉が違っててもコミュニケーションできるということ、人によって環境や考えが違うことを忘れずにいてくれればと思います。」

高野陽子さん (38) は、10才と8才のママ。オーストラリアに9年在住。「地域の教会で子育てサークルがあったり、保健所で子どもの検診をまめにやってくれるので、外国にいても孤独な育児には全くならなかったですね。オーストラリアでは、人前でも厳しく叱ります。子どもたちもまた自己主張がしっかりしていますね。帰国して2年になりますが、ピーターラビットの参加や家で英語のビデオを見るなど英語に触れるよう心掛けています。」

ピーターラビット文庫
英語の絵本の読み聞かせや
ゲームなどを通して英語に親
しむ活動を行っている。



▲活動風景



写真を提供してくれたのは、宇都宮市在住の高校生、岡絵理香さん。栃木県日仏青少年短期研修事業でフランスに派遣されたときの思い出の写真を紹介してくれました。

私はどこか分りますか？

フランスのヴォークリューズ県にある”ヴァルー・ドゥ・デュラレス高校”に体験通学したときに、歴史の課外授業として高校からバスで1時間のところにある博物館へ行きました。体験通学初日は緊張してしまいましたが、2日目からは自分からあいさつしてみると、すぐに皆と友達になりました！それに、会うと抱き合っあいさつをする習慣は、友情の確認ができるみたいですごく気に入りました。



マルシェで出会った野菜たち

ホームステイ先の家族が、日曜日に開かれるマルシェ（市場）に連れて行ってくれました。野菜が日本のより大きいなあという印象がありました。それににんじんがとても甘かったんです。

しかし、なんと言ってもはまったのが、写真の上のほうに写っている緑のつぼみのような野菜、アンティチョーク！これをペースト状にしてパンに塗って食べたら、あの美味しさは忘れられません！！

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。詳しくは、協会までお問合せください。（☎028-621-0777）

TIAトピックス

栃木県南米移住者 子弟短期研修生来県

栃木県から南米へ移住した方々の2世・3世が、祖父母の故郷である栃木県を知り、日本文化に触れるため、ブラジル、パラグアイから5名が来県した。南米は真夏の時期である1月22日（土）に来日したので、はじめは日本の寒さに一同驚いた。成田空港からそのまま東京へ移動し、浅草寺や上野方面を見学したり、横浜にある海外移住資料館で、日本人の移住の歴史に触れた。

県内においては、県立茂木高校で体験通学をして、授業を受けたり、高校生との交流ができた。

また親戚宅の訪問も果たし、充実したプログラムを終え、2月6日（日）帰国した。



とちぎ国際セミナー「外国人への医療支援～医療通訳の現場から～」

外国人支援の一つである医療通訳について、その必要性と課題について考えるセミナーが2月19日（土）、とちぎ国際交流センターで行われた。多くの方に関心を持ってもらおうと医療関係者に限らず広く参加を呼びかけたところ、50名を越す参加者があった。講師はNPO多言語社会リソースかながわの西村明夫氏と医療通訳スタッフでもある鈴木クリスティーナ美幸氏。セミナーでは、医療支援の先進地域の紹介や医療現場での通訳の再現など分りやすく伝えたほか、通訳技術のポイントや通訳派遣を制度的に取組むことが必要との話があった。



外国人日本語ボランティア養成セミナー

日本語のできる外国人が、日本語の教え方を学ぶというセミナーを、2月19日（土）から全4回にわたりとちぎ国際交流センターで実施、20名（5ヶ国）が参加した。第1回目は県内で日本語ボランティアとして活躍されている、眞田和子氏、鈴木美幸氏、中坪良子氏が、模擬授業を行い、教える手順を実演した。第2回・第4回は宇都宮大学等で講師を務める金子正子氏により、文法の整理や教える上での注意点などをまとめた。第3回は、広岡きい子氏による日本の行事や礼儀、きものについて学んだ。



▲「これ」を教えてみる、結構難しい

「わいわい地球っ子クラブ」～ワクワク ドイツ～

小学生の国際理解のためのクラブの第10回がドイツをテーマに、3月5日(土)にとちぎ国際交流センターで実施された。小学校3年生～6年生の26名が参加。この日は、石橋町国際交流員のウルリーケ・エアメルさんに協力をいただいた。まずは、ドイツ生まれのキャンディ「グミ」をみんなで作った。ほどよい堅さにするのが、なかなか難しい…冷ましている間、エアメルさんによるドイツの紹介とドイツ語の簡単なあいさつなどを教えてもらった。折り紙は日本ばかりじゃない! A4サイズの紙を使ってドイツの折り方でボート作りに挑戦し、みんな上手に折れた。最後にほどよく固まった「グミ」を食べて大満足の地球っ子たちだった。



日仏青少年短期研修生帰国報告

栃木県と友好交流を進めているフランス・ヴォークリューズ県で県内の高校から選ばれた5名が研修を行い、3月9日(水)にとちぎ国際交流センターで帰国報告を行った。5名の研修生は現地の高校で体験通学やホームステイを行ったほか、フランスの歴史や文化に触れた。



栃木県海外技術研修員帰国

栃木県が国際協力の一環として受入れている4カ国7名の技術研修員が3月18日(金)にそれぞれの国に帰国した。帰国後は、日本で学んだ技術を活かし母国発展に貢献するとともに、日本との友好の担い手となることが期待される。



Club lycée ★緊急支援を考える★

高校生のための国際理解クラブである、平成16年度最後のミーティングが3月12日(土)にとちぎ国際交流センターで行われた。災害などが起った際の国際援助や協力に焦点をあてた。国際機関、国、NGO団体はそれぞれどのような支援を行っているかを紹介。NGO団体の活動を具体的に理解するため、リセメンバーが30以上もの団体を対象国別にまとめた。

今回は、3年生にとって最後のミーティング。リセの活動を活かして、視野の広い国際人を目指そう! **《リセ新規メンバー大募集中!!》**



国際理解への扉 進め! 国際理解

今回のテーマ「中学生が見て触れた中国」

JICAでは、全国の中高生を対象に、開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、私たちはどう行動すべきかについて考えるエッセイコンテストを毎年開催しています。平成16年度は全国の中中学生から15,206作品、高校生から13,529作品の応募がありました。栃木県内からは、「スポーツが世界平和の可能性を持つ」と訴えた足利市の中学生 周藤有実さんの作品が審査員特別賞に輝き、副賞として中国研修に参加しました。周藤さんは研修での出会いを大切にしたいと目を輝かせていました。

今回は、受賞者13人との同行記を彼らの言葉と共にお伝えしたいと思います。

3月24日…成田発北京へ

中国の反日感情に不安を抱きつつの出発。



▲中国の学生の中で笑顔の有実ちゃん

「中国人に石を投げられたらアメを投げ返す! 母とルールを作ってきました!」

3月25日…JICAプロジェクト見学

中日友好環境保全センター、中日友好医院等を見学。お互いの文化を尊重しながら共に歩む日中間の深い結びつきを感じた一日でした。

見学先で発見→



「このロゴマークかわいい!! 長城と富士山!」

3月26日、27日…北京視察

抗日戦争記念館ではあまりにもショッキングな内容だったため言葉がなくなっていました。

3月28日、29日…长春市第一中学校との交流、ホームステイ

「日本では感じる事のなかった中国の方の温もりに触れた」「言葉は分からなくても、伝えようとする想いで通じ合えた」「中国の学生は好意的で、日本のことをたくさん知っているのに、私たちは中国のことを知らな過ぎで恥かしかった」

★ひとりの人間として互いの文化や習慣を受け止めることができた6日間でした。

JICA 栃木県国際協力推進員 松島愛実

宇都宮 ↔ 成田空港

(直通高速バス・マロニエ号 毎日10往復)

空港ターミナル出発ロビーへ2時間50分!

- 柳田に専用駐車場 (210台) 完備 1日200円
- 運賃 大人片道 **4,070円**
小人2,040円
- 鹿沼インター入口のみ **3,900円**
小人1,950円
- お問合せ・ご予約は成田空港行予約センター ☎(028)638-1730 関東バス

成田空港行	
柳田(朝日大前)発	4:20 4:50 5:50 6:35 8:05 9:15 10:35 12:05 13:35 15:05
JR宇都宮駅発	4:40 5:10 6:10 7:00 8:30 9:40 11:00 12:30 14:00 15:30
鹿沼インター入口発	4:57 5:27 6:27 7:19 8:52 10:02 11:22 12:52 14:22 15:52
成田空港着	7:30 8:00 9:00 9:50 11:20 12:30 13:50 15:20 16:50 18:20
鹿沼・宇都宮行	
成田空港発	8:10 9:40 11:10 13:10 14:40 15:40 17:00 18:10 19:40 20:50
鹿沼インター入口着	10:38 12:08 13:38 15:38 17:02 18:02 19:28 20:43 22:13 23:23
JR宇都宮駅着	11:00 12:30 14:00 16:00 17:30 18:30 19:50 21:00 22:30 23:40
柳田(朝日大前)着	11:20 12:50 14:20 16:20 17:50 18:50 20:10 21:15 22:45 23:55

第79回定期演奏会

栃木県交響楽団

2005年7月3日(日)午後2時開演(1時30分開場)宇都宮市文化会館大ホール



〈ピアノ〉
須藤 梨菜

〈演奏曲目〉

- ワグナー
歌劇「タンホイザー」序曲
- ショパン
ピアノ協奏曲 第1番
- カリニコフ
交響曲 第1番



〈指揮〉
井崎 正浩

全自由席 ¥1,500円(前売1,200円) 電子チケットぴあ
お問い合わせ 栃響事務局 ☎028-643-5288

※掲載広告を募集しています。詳しくは協会までお問い合わせ下さい。

平成17年度国際化推進事業の助成事業募集中!!

TIAでは、栃木県における国際化をさらに推進するために、「国際化推進事業助成金」制度を設けています。

●対象事業

- ・一般県民に公開されること
- ・県内で実施される
- ・営利を目的としない
- ・日程と内容が具体化している
- ・地域の国際化、国際理解、国際協力の推進につながる活動

●申請者の資格

- ・県内にある国際交流等の団体(上記団体の実施委員会も可)
- (注)地方公共団体等から運営経費の補助を受けている団体は除きます。

●申請締切り 5月31日(火)

●問合せ (財)栃木県国際交流協会 TEL028-621-0777

とちぎ留学生奨学金・とちぎ民間奨学金の奨学生募集!!

県内の大学等に在学している外国人留学生に対し、企業等からの寄付及び栃木県の補助を受けて、平成17年度は次のとおり奨学生を募集しています。

●募集人員

- ・とちぎ留学生奨学金 20名 (年額60万円/1名)
- ・とちぎ留学生民間奨学金2名 (年額24万円/1名)
- ・とちぎ留学生世界遺産・環境保全奨学金 1名 (年額24万円/1名)

●募集締切り 5月31日(火)

●問合せ

在籍する大学等の留学生担当へ

賛助会員募集!!

(財)栃木県国際交流協会(TIA)では、賛助会員を募集しています。皆さまからの賛助会費は、TIAの様々な事業に使用させていただき、地域の国際化に役立っています。

会員の特典:

- TIA主催・共催等の各種イベントやセミナー等の情報提供。
 - TIAニュース「やあ!」を年4回送付。
 - 会員証の提示により指定店の旅行企画商品および海外旅行用品の割引
 - テレビ方式変換(海外⇄日本)の無料サービス
 - 団体賛助会員には、とちぎ国際交流センター利用の場合、予約は2か月前から先行受付(通常は1か月前より受付)。
- 年会費:個人 3,000円
団体 10,000円
法人 30,000円

栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

～とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室はどなたでも気軽にご利用できます～

■相談事業

在県外国人をはじめ県民の皆さまの国際交流・国際協力に関する相談に専門の相談員が応対

■機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ!」や在県外国人向け外国語情報紙の発行
とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

■各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

■TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

■とちぎコミュニケーションネットワーク(TCN)

在県外国人のネットワーク。イベント等の情報提供、国際理解講座等への協力

*この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。

*とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室はどなたでも気軽にご利用できます。会議室等の施設利用についてはご相談ください。

新規賛助会員の方々

団体:青年海外協力隊とちぎ応援団
個人:佐藤玲子様、栗原昭夫様、八巻恵美子様、Subramaniam Welvijay様
～ご入会ありがとうございます～

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

人事異動のお知らせ

岩崎修が退任し、海老沼勝義が理事長に就任。総務企画課 高嶋仙子主任が県国際交流課へ一年間の実務研修。臨時補助員が戸高千鶴から関晴奈に交替。

新たな発見 ブラジル・エコ・ツアー

日本列島が
すっぴり入る大温帯「パンタナル」
釣、動物観察など7、8月が最適



ちらちらと可憐に飛ぶ
ニンファディウム カイカエ

ツニブラトラベル株式会社



東京都中央区八重洲2-7-7旭ビル〒104-0028
Tel 03-3272-2865 Fax 03-3271-5319
E-mail sato@tunibra.co.jp
http://www.tunibra.co.jp

大阪・名古屋・浜松
サンパウロ・リオデジャネイロ・イグアス・ベレン・マナウス
東京都知事登録旅行事業 3-3906 日本旅行業協会正会員

TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業務時間 8:30～17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日